

海外安全対策情報（2017年10月～12月）

1 社会・治安情勢

ウガンダ警察の統計によると、女性に対する暴力事件（殺人、強姦、誘拐等）が過去7年間で増加しています。2010年、家庭内暴力によって殺された女性は109名、その後、2016年には163名に増加。2011年、人身売買の被害数は36名に対し、2016年は375名に増加。誘拐事件は2011年72件に対し、2016年は572名に増加しました。

12月5日、警察の報道によると、首都カンパラ市内の犯罪が発生しやすい地域は、ンサンビヤ交差点、ノーザン・バイパス、ナミレンベ・ロード、クロックタワー付近で、渋滞中に窃盗被害が多く発生しています。

12月27日、ムセベニ大統領が、大統領候補者の年齢制限撤廃及び大統領・国家会議員の任期延長に関する憲法改正法案に署名したと報じられた。なお、任期延長が適用され、立候補の二期制限が決定した場合には、時期選挙が2023年に実施され、ムセベニ大統領は2037年（同年93歳）までその職を務めることが可能となります。

2 一般犯罪・凶悪犯罪

(1) 盗難・強盗事件

ア 邦人被害事案

○10月、車上乘車中の窃盗被害が2件発生しました。

○11月、宿泊ホテル滞在中の窃盗被害が1件発生しました。

○12月、歩行中の強盗被害1件、宿泊ホテル滞在中の窃盗被害1件、車両乗車中の窃盗被害が2件発生しました。

イ 邦人以外

○カンパラ市 (Kampala)

11月4日、窃盗容疑で15名が逮捕され、150台の携帯電話が警察により押収されました。

11月28日、警察報道によると、過去3か月にカンパラ市内で136台の車両が盗まれており、内36台は押収されました。

12月4日、11人の窃盗及び麻薬容疑者が逮捕されました。

(2) 殺人事件

○カンパラ市 (Kampala)

10月29日、深夜3時頃ンティンダ地区で、住人が自宅に入ろうとしたところ、強盗に襲われ、携帯電話及び財布等を盗まれ殺害されました。

○マシンディ県 (Masindi)

12月7日、同県では、殺人事件が増加しているため、ギャングや犯罪者に対して、今後警察は厳しく取り締まると発表しました。

(3) 強姦事件

邦人が被害に遭ったとの情報には接していませんが、ウガンダにおいては強姦事件が深刻な問題となっています。また、被害者となる女性の大半が未成年者であり、近親相姦が頻繁に発生しています。

3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ・爆弾事件は発生していません。しかし、ウガンダ政府は近隣国ソマリアの治安向上を目的にアフリカ連合ソマリアミッション (AMISOM) に自国軍を派遣し、ソマリア武装テロ組織「アル・シャバーブ」に対する掃討作戦に参加しています。このため、同組織はウガンダへの反発を強めており、しばしば当国を名指しで報復する旨発言していることから、引き続き注意する必要があります。

また、シリアやチュニジア、バングラデシュで発生した日本人が殺害されるテロ事件をはじめ、ISIL (イラク・レバントのイスラム国) 等のイスラム過激派組織又はこれらの主張に影響を受けた者によるとみられるテロが世界各地で発生しています。したがって、日本人・日本権益がテロを含む様々な事件に巻き込まれる危険があることから、このような情勢を十分に認識して、誘拐・脅迫・テロ等の不測の事態に巻き込まれることがないように、渡航情報及び報道等により最新の治安・テロ情報等の関連情報の入手に努め、日頃から危機管理意識を持つとともに状況に応じて適切で十分な安全対策を講じるよう心がけてください。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人が誘拐・脅迫される事件は発生していません。しかし、ウガンダにおいては人身売買および身代金を目的とした誘拐事件が多数発生しており、邦人が巻き込まれる可能性も否定できないため、滞在中は警戒を怠ることのないよう十分注意してください。

○カンパラ市 (Kampala)

11月1日16時頃、チェバンド地区で、男性1名が誘拐されました。目撃者によると誘拐した車両ナンバーは政府機関のナンバーを付けており、同地域での同様の被害は2回目です。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

対日感情が良好なこともあり、日本企業であることを理由に標的とされる可

能性は低いですが、上記「テロ・爆弾事件発生状況」のとおり、テロが世界各地で発生していることを踏まえれば、日本人・日本権益がテロを含む様々な事件に巻き込まれる危険も排除できませんので、十分注意のうえ安全対策を怠らないよう努めてください。

以上